

永原学園地域子育て支援センター

さんこう・ぽぽらだより

令和4年9月発行 第185号

認定こども園西九州大学附属 三光保育園

TEL: 0952-31-6877

9月の生活目標

・自分のことは、自分でする。

8月 親子クッキング



「シニアサロンぽぽら」

子育て支援センター「さんこうぽぽら」では、月に1回地域の方におこし頂き楽しいひと時を過ごしています。お茶とお菓子を頂きながら、おしゃべりや物づくりを楽しみませんか？

日時：9月15日（木）… 敬老の集い

10月31日（月）… ひがさす見学

♪ 育児相談・食育相談をしています♪

三光保育園及び三光幼稚園では、電話での育児・食育相談を受け付けています。お気軽にお電話下さい。

※毎月第3火曜日の14時～16時までは、西九大短大部教員による食育相談を行っています。

さんこう・ぽぽら園庭開放の時間帯について

※9月は開放しませんが、本来は以下の日程で行っています。

【開園日】〇月～金（祝祭日・お盆・年末年始を除く）

【時間】〇9:00～12:30

・園行事の為、ご利用できない場合があります。

・出前支援の場合は、担当職員が不在になります。

〇12:30～13:30

昼休みの為閉園

〇13:30～16:00

この時間帯のご利用の場合は、電話での申し込みをお願いいたします。

♡ 動き出しましたね ♡

今年の夏休みは、佐賀市の栄の国祭りや校区のお祭り、そして、花火大会が復活して久しぶりに心が晴れやかになりました。大和のインターまで車を走らせていたところ、突然目の前に花火が次々にあがりびっくり！！

“花火ってこんなにきれいだったんだ～！！”と、しみじみ感動しました。先日は、三光幼稚園のお祭りも3年ぶりに開催されました。お祭りにつきものの飲食は行いませんでしたが、ヨーヨー釣りや金魚すくい、的あて、バルーンアート、お面等々、祭りにアルアルの必需品は一通り準備して、竹太鼓の競演、盆踊りと賑やかな祭りを楽しみました。子ども達も大人達も笑顔いっぱい2時間は、元気と勇気が湧きました。

皆さんの夏はいかがでしたか？コロナの感染状況はなかなか収まりませんが、知恵や工夫で少しでも楽しい時間を作り出していきたいですね。

夜風は涼しくなってきました。秋はそこまで来ていません。感染防止に配慮しながら、ポポラの秋の活動も続けていきたいと思えます。奮って参加して下さい。

（三光保育園園長）

9月の「子育て支援事業」のお知らせ

- ・9月5日（月）…2・3歳の日（水遊び）
- ・9月6日（火）…1歳の日
- ・9月8日（木）…1歳の日
- ・9月9日（金）…赤ちゃんの日
- ・9月12日（月）13日（火）・14日（水）…フリーディ
- ・9月21日（水）…防災講座

10月の「子育て委支援事業」のお知らせ

- ・10月11日（火）…なかよしミックス（芋ほり）10時～12時
- ・10月12日（水）…なかよしミックス（芋ほり）10時～12時
- ・10月14日（金）…1歳の日
- ・10月17日（月）…2.3歳の日
- ・10月19日（水）…1歳の日
- ・10月20日（木）…赤ちゃんの日
- ・10月24日（月）…フリーディ
- ・10月25日（火）…フリーディ【初めての人限定】
- ・10月26日（水）…フリーディ

※時間：10時～11時

※開催場所：三光幼稚園・保育園の運動場・子育て支援センター

※事前の電話での申し込みが必要です。（9月分は、9/1～10月分は、10/3から電話受付開始）

※赤ちゃんの日は兄弟姉妹の参加はご遠慮下さい。1歳と2・3歳の日は、参加できます。

※新型コロナウイルス感染症に流行により、今後も支援事業の中止の可能性が有りますこと、ご了承ください。

親子で歌う豊かな時間

西九州大学短期大学部 幼児保育学科

野口美乃里

子どもが最初に出会う音楽、それはお母さんの歌です。歌といってもそれは「マザリーズ」と呼ばれる、赤ちゃんをあやすときにお母さんが自然に発する、高音域で抑揚のある語りかけから始まります。赤ちゃんはそれに応え声を出しますが、その波形やリズムはお母さんの「マザリーズ」と同じであるといわれています。この時点ですでに音楽的なやり取りが始まっているのです。

実際に子どもが歌(らしきもの)を歌い始めるのは1歳ころからですが、まだ言葉の出ない赤ちゃんの頃から、たくさん歌って聴かせてあげてください。子どもにとってお母さんの歌は耳だけでなく五感と心を通して聴こえるものです。愛情という栄養たっぷりの歌が子どものからだに響くとき、子どもは心から音楽を楽しみ、安心し、満たされます。

子どもが歌えるようになったら、どんどん一緒に歌いましょう。おすすめは「わらべうた」や「童謡」です。「いっぽんばし こちょこちょ」「げんこつ山のたぬきさん」「あぶくたった」などのわらべうたは、あそびの中で子どもたち自身が創り出し、子どもたちによって伝承されてきたものです。使われている音は2~5音と少なく、言葉のもつ抑揚やリズムに依存しているので、話し始めたばかりの子どもでも、話すことの延長のような感覚で歌い始めることができます。また「童謡」には「ぞうさん」「犬のおまわりさん」「あめふりくまのこ」「おつかいありさん」など、動物や虫やお花などが擬人化され登場します。子どもが親しみを感じながら、楽しい・嬉しい・寂しい・温かい・心にじんときくるなど、子どもの感受性や情緒を育み、想像力を豊かにし、言語の発達に良い影響を与えます。

テレビから流れてくるリズムカルで刺激的な歌も良いのですが、子どもが歌うには難しいものも多く、親子で楽しむ歌は子どもの発達に合ったものであることが望ましいです。

歌うという行為は、一緒に歌う相手と呼吸を合わせるということでもあります。きっと皆さんも、一緒に歌う人とのつながりや一体感を感じた経験がおありでしょう。是非お子さんとたくさん歌ってください。そこには親子の絆を感じられる豊かな時間があります。